

弾道ミサイル発射避難訓練の成果（概要）（1/2）

区 分		成果があった事項	改善を要する事項・課題	今後の取組	
訓練項目に関する事項	情 報 伝 達	共 通	<p>◎市内全域にJアラート警報音を放送したことで、多くの住民が国からミサイル発射情報が住民レベルまで伝わる一連の流れを実行動で確認できた。</p>	<p>▲同報無線の難聴地域への新たな対策が必要</p> <p>▲ミサイル発射情報伝達の仕組みの細部について周知が必要（緊急速報メールを含めて）</p> <p>▲事業所等内での関係者相互の情報伝達について啓発が必要</p>	<p>●スピーカーの増設について予算措置を検討</p> <p>●ミサイル発射情報の伝達手段について整理した文書を配布・公表</p> <p>●事業所等に対する避難計画作成に関する説明会等で明示</p>
		アピタ・同周辺	◎住民同士の声掛けで、避難行動を促す場面があり有効であった。	▲Jアラート警報音の切迫感が十分に伝わっていない。	
		大井川鐵道	<p>◎国からのミサイル発射情報をJアラート、Mアラートを活用して、乗客レベルまで伝える一連の流れを実行動で確認できた。</p> <p>◎乗務員の案内（指示）放送が乗客の安全確保行動を促すうえで、極めて有効であった。</p>	▲乗務員の案内（指示）の口調や退避行動間（ミサイル撃破により安全が確認されるまでの間）の案内の有無によって、乗客の不安軽減に影響を及ぼす。	●今回の訓練成果を他事業所に普及
	避 難 行 動	共 通	◎Jアラート警報音等のミサイル発射情報に基づき、最低限取るべき安全確保の行動について、実行習を通じて理解させることができた。	<p>▲避難行動に関する意識が浸透していない。</p> <p>▲最初に行動を起こした者に引き連られる傾向がある。（動かないこと、同一行動を取ることに）</p>	●訓練成果の公表、防災訓練への取り込み、出前講座等により、状況に応じたより確実な避難行動の選択について普及、啓発する。

弾道ミサイル発射避難訓練の成果（概要）（2/2）

区 分		成果があった事項	改善を要する事項・課題	今後の取組
避難 行 動	アピタ・ 同周辺	◎蓬萊橋では、護岸、ベンチ、ボックスカルバート等、近傍の施設を活用しての避難行動について、実習を通じて理解させることができた。	▲Jアラート警報音に対する反応が鈍い。	●今後の啓発活動、訓練を通じて、周知を図る。
			▲身辺にあるあらゆる物を利用してでも、必死で自らの命を守る切迫感・気迫に欠ける。	●状況に応じた具体的な退避行動の一例を、幅広く提示する。今後の訓練要領を工夫する。
	大井川鐵 道	◎乗務員の案内とエリアメール（模擬）により、ミサイル発射情報の緊急度に応じた避難行動を取ることができた。	▲乳幼児や車椅子利用者の安全確保については、乗客相互のきめ細かな援助行動が必要	●今後の訓練で、具体的な援助要領を研究し提示する。
			▲2発目以降のミサイル発射に備えて、電車を降りて、近傍の建物内に避難する行動や緊急患者搬送の訓練も併せて行うことが望ましい。	●今後の訓練で取り込む。 （警察、消防、市役所等の連携）
その他	関係機関との連携	◎警察との連携について一例を確認できた。	▲消防等との連携する機会がなかった。	●今後の訓練に取り込む。図上での研究会を行う。
	事業所との連携	◎訓練準備を通じて、各事業所の緊急時の対応や行政との連携について理解を深めることができた。 ◎指定公共機関として必要なEメール及び個別受信機の整備を行うことができた。	▲今後、市内の幅広い事業所での対応マニュアル整備を啓発していく必要がある。特に、国民保護計画における指定公共機関については、積極的な取組を促すことが必要	●今後の国民保護協議会や図上検討会の場で啓発を図る。
	国・県との調整要領	◎訓練準備を通じて、弾道ミサイル発射対応全般について、認識を共有することができた。		●Jアラート警報音と放送内容の緊迫感の不足については意見提出する。
	訓練要領	◎先進的な訓練種目を取り込むことができた。	▲退避行動について、訓練参加者が幅広い選択ができるような枠組み作りが必要	●今後の訓練では、屋内退避以外の多くの選択ができる場を設定する。

